

## 第 62 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 平成 29 年 1 月 25 日 (水) 15:30~16:30
- 場 所 : 政策研究大学院大学 会議室 3C
- 出席者 :
  - 〔学外委員〕  
石田委員、老川委員、奥委員、小野委員、加藤委員、工藤委員、嶋津委員、  
中邨委員、林委員、早房委員
  - 〔学内委員〕  
白石学長、大山理事、増山副学長、園部副学長、角南副学長、横道副学長、今  
野学長特別補佐、中野大学運営局長
- 欠席者 :
  - 〔学内委員〕  
道下学長特別補佐

### I. 審議事項

#### 1. 第 3 期中期計画の変更(案)について

資料に基づき、中野大学運営局長から、第 3 期中期計画の変更(案)について説明があり、これを了承した。

#### 2. その他

特になし。

### II. 報告事項

#### 1. 平成 30 年度以降の校舎維持管理事業について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成 30 年度以降の校舎維持管理事業について、PFI 導入可能性等調査による提案の概要及び今後の調達日程について報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：資料の(5)見積額にある、「(参考 1)現在の維持管理費平均 1.7 億円/年」について、PFI 方式から包括的民間委託方式にするとコストが下がるということだが、なぜ今後も同程度の費用となるのか。

△：PFI の場合 SPC(Special Purpose Company)をつくり、1 つの法人として運営をするためコストがかかるが、包括的民間委託の場合はこのコストが抑えられる。他方、今回の調達後本学は建築後 15 年目、20 年目を迎え修繕費、維持費が高額になるためコストが上がる。

○：「(参考 2)国立大学平均、私立大学平均」について、国立は地方の大学も含めた平均かと思うが、都心にある大学もこのような水準で、本学だけが突出して高いのか。また、私立大学も地方と都心の差があるかと思うが、国立大学と比して高額になる理由があれば解説いただきたい。

△：国立大学の数値はあくまで平均で、建物に応じて相当異なると聞いている。大学ごとの数字までは把握が出来ていない。私立大学については、学生確保の戦略として、学生に対するアピールのため、施設面での魅力を戦略として位置づけることがあり、それに伴い維持管理費が高い水準になる傾向があると聞いている。

- ：包括的民間委託方式は新しい方式か。  
△：新しい方式というわけでは無く、地方公共団体等では採用されているが、国立大学では初めてと聞いている。  
○：国立大学法人法改正により、土地の貸し付けが可能になったことについて、文部科学省でその範囲や基準を近く示すべく検討しているようだが、その場合民間への委託はメンテナンス以外でもできるのか。  
△：可能だが、本学では維持管理業務及び施設の修繕業務のみ。  
○：文部科学省の方針や他大学のケースも確認のうえ、範囲が広がっているのであればどのような組み合わせが可能か研究をすると良いのでは。  
△：検討する。

## 2. 平成 29 年度運営費交付金内示の概要について

資料に基づき、中野大学運営局長から、平成29年度運営費交付金等内示額の総額は、対前年度0.2%増の2,144百万円であり、内訳としては、運営費交付金が対前年度0.3%減の2,135百万円であること、平成29年度より新たに国立大学機能強化促進費（補助金）9百万円が手当されたこと、基幹運営費交付金が対前年度0.3%増の1,892百万円であること及び各戦略の内示額等について説明があった。

## 3. プロフェッショナル・コミュニケーションセンター（CPC）の活動について

資料に基づき、ペチコ CPC センター長および岩田 CPC センター副所長から CPC の活動について報告があった。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。（○：学外委員、△：本学）

- ：秋学期に1つ科目を担当しているが、学生に対し論文のフォーマット、引用方法を指定してもなかなか徹底されない。まずは英語論文とはどういうものかということをも是非学生には教えていただきたい。また、修士の学生の中には今後博士課程に進みたいという希望の学生もいるため、もう少しライティングの指導を通し修士論文、博士論文の精査をしていただけるとありがたい。  
△：CPC としてガイドラインは作成しており、フォーマット等教えてはいるが、なかなか学生の中で徹底がされない。今後も指導を行っていく。  
○：学生数がかなり多いがどのように指導を行っているのか。論文の中身の部分はCPCの指導からは切り離されているのか。  
△：現在CPCには各分野の専門家を含む10名の教員が在籍しており、全ての分野に対応できている訳では無いが、その分野の特性を考慮した指導を行っている。論文の内容の指導はそれぞれのプログラムの教員が行っている。  
○：教職員に対するプログラムで「How to say 'NO' politely」とあるが、端的に言うところのどのようなことを教えているのか。  
△：日本語と英語では根本的に異なる部分があり、文法的には正しいが失礼な文章になってしまっていることがよくある。文化の違いを教え、また、英語では「NO」という際には丁寧に理由を述べる必要があると教えている。

## 4. その他

特になし。

以上。